

図書館施設調査の報告3 ■床面積、開架面積、収蔵冊数、座席数など

図書館施設調査の報告3 (2010～2021年) 2023.09.29作成 ●調査年度は令和元年～令和三年

●調査年度は令和元年～令和三年

調査年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
床面積	22	19	14	13	14	11	11	9	8	8	8	8	138
開架面積	12	9	8	11	8	8	7	6	5	5	5	4	81
収蔵冊数	9	4	12	4	7	3	7	8	10	4	7	4	71
座席数	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	75	58	42	37	34	23	24	24	24	24	24	24	474

●調査年度は令和元年～令和三年

調査年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
床面積	15	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	122
開架面積	8	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	66
収蔵冊数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	44
座席数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	75	58	42	37	34	23	24	24	24	24	24	24	474

・中央館より地域館・分館が少し多いので、小規模な施設が少し多い。
7

2. 複合型図書館の事例紹介

- 1) 気仙沼図書館(宮城県)
- 2) 瀬戸内市民図書館(岡山県)
- 3) 恩納村文化情報センター(恩納村立図書館、沖縄県)

参考文献
E2269 - 地域の拠点としての図書館施設: 国立国会図書館の調査研究
カレントアウェアネス-E No.392 2020.06.11





3. 図書館を含む複合施設の利用状況

- 1) 塩尻市市民交流センター「えんぱーく」
(塩尻市立図書館、長野県)
- 2) 尾張一宮駅前ビル「i-ビル」
(一宮市立中央図書館、愛知県)
- 3) 市民交流プラザふくちやま「ききょう」
(福知山市立図書館中央館、京都府)
- 4) 安城市中心市街地拠点施設「アンフォーレ」
(安城市図書館情報館、愛知県)⁵

塩尻市立図書館(えんぱーく:塩尻市市民交流センター)

「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の5つの重点分野が複合した市街地再開発ビル。
駐車場は道路を挟んだ市営駐車場が6時間無料。

一宮市立図書館(i-ビル)

尾張一宮駅前ビル(愛称「i-ビル」)は、JR尾張一宮駅に隣接し、尾張西部の中核都市の新たな玄関口として誕生、図書館や子育て支援センターなどの複合的な施設で、多用途に利用できるのが特徴。駐車場は図書館利用者は1時間無料で、以降は30分で100円。

■ 塩尻と一宮の交通手段と利用者層の割合(全体)

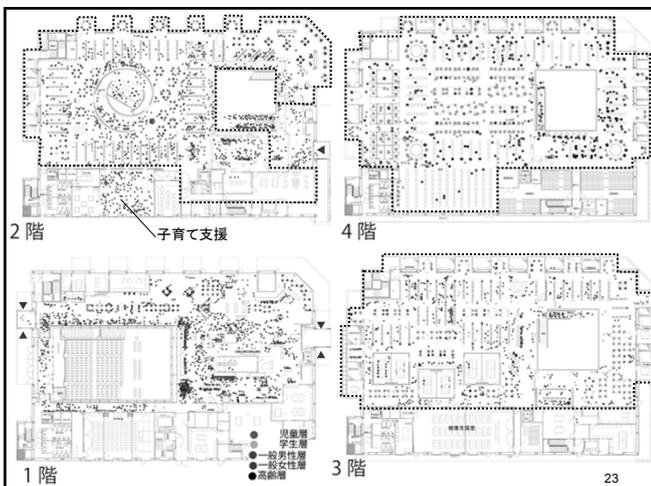
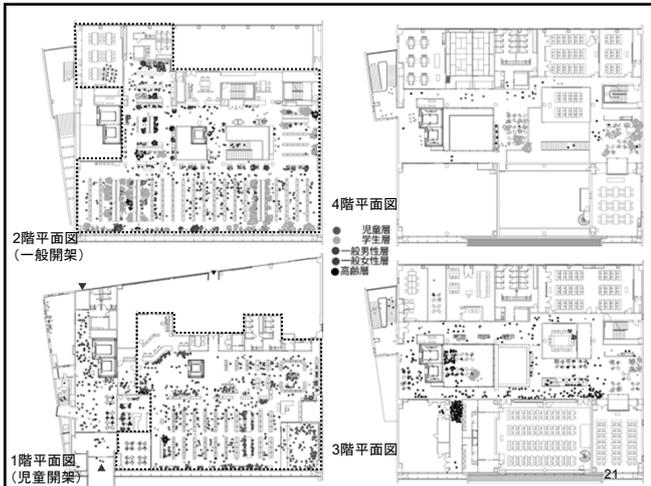
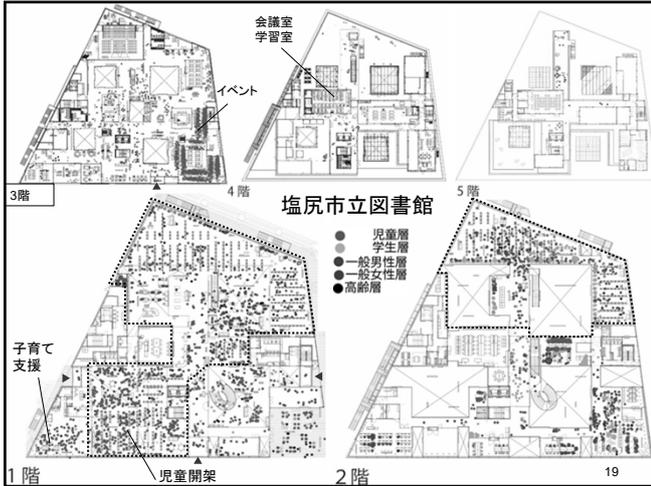
交通手段	塩尻	一宮	過去	属性	塩尻	一宮	過去
徒歩	9%	14%	6%	1.児童	23%	22%	26%
自転車	17%	20%	20%	2.学生	16%	13%	17%
バイク	2%	0%	2%	3.有職男	23%	21%	23%
車	64%	41%	68%	4.有職女	9%	12%	9%
バス	2%	5%	2%	5.主婦	18%	13%	21%
鉄道	4%	13%	2%	6.高齢者	6%	10%	4%
他・不明	2%	7%		7.不明	6%	10%	
総計	100%	100%	100%	総計	100%	100%	100%

- ・過去の調査は車が7割であったが、一宮は車が約4割、塩尻65%。
- ・一宮は徒歩、鉄道もそれぞれ約10%増となっている。
- ・立地と駐車場の問題が大きく影響していると考えられる。

- ・一宮は主婦が約10%減少し、高齢者が増加。
- ・主婦は家族連れでの利用が多く、「近さ」を優先していた。
- ・主婦層は圖書の貸出が主目的、男性層は移動するか本を購入。

↓

- ・一宮では家族連れの子どもの利用が減少しているのでは？



複合施設の空間構成と図書館利用 (まとめ)

■利用者層の分布と階構成

- 各利用者層によって利用するフロアや図書館内のコーナー、共用部の利用や分布に偏りが生じている。
- 児童層は児童開架全体、学生層は勉強目的で閲覧席・学習室・共用部、成人男性層は一般開架全体、成人女性層は児童も含む開架全体、高齢者は新聞雑誌を中心に開架全体に分布。

■学習室のフロア配置と学習利用の分布

- 学習室があれば、共用部でも図書館内でも学生の利用が集中。
- 学習室が共用部にあると図書館内と学習室で学生が使い分ける。

■図書館と共用部の階構成と利用者層

- 図書館と共用部が同一階にあると、共用部は児童層や成人男女層など各利用者層が分布。
- 図書館と共用部が異なる階にあると、共用部は学生層が多くなるなど、利用者層(利用内容)に偏りが生じている。
- 図書館と共用部が異なる階にあって、塩尻のように上階の共用部と同一階に出入口があれば、共用部は各利用者層が利用。

複合施設の図書館利用について利用 (図書館雑誌2016年4月号)

■複合施設について利用

- ・複合施設全体では図書館を使わない人は約15%
- ・図書館と他の施設を利用するについて利用者は15~20%。

↓

- ・図書館のある複合施設では約8割の利用者が図書館を利用。
- ・について利用者は約2割となり、図書館利用者が大半を占める。

↓

複合施設といえども、よい図書館を計画しなければ図書館も利用されず、複合施設全体の利用率も下がるといえる。

■ゆるやかな連携について利用

- ・塩尻は吹抜けがあり、壁やガラスで各機能が仕切られていない。
- ・図書館を含むについて利用が約3割と他の施設に比べて多い。

↓

ゆるやかに連携した複合施設では、単独館では現れない施設サービスへの需要が掘り起こされ、今まで利用してこなかった人たちに、施設利用のきっかけを与えることができるか。(今後の課題)²⁵

4.開架エリア内での滞在行动と平面構成

- 1) 開架エリアのタイプ別の利用状況
- 2) 開架エリアでの滞在場所
- 3) 開架エリアの平面構成と滞在利用の内容
- 4) 一般利用者と児童の座席選択

26

開架エリアの空間構成

2-1 調査対象館の選定

珠洲
小諸 ↑ 同フロア型
亀山 ↑ 一部分離型
神戸 ↑ 完全分離型

開架エリアの配置

同フロア型: 開架エリアは積層しておらず、同じ階に一般開架と児童開架が配置されている場合。

一部分離型: 開架エリアが積層しており、同じ階に一般開架と児童開架が配置されている階と、どちらか片方だけの開架がある階がある場合。

完全分離型: 開架エリアが積層しており、一般開架と児童開架が階ごとに完全に分離している場合。

27

調査概要

2-2 調査対象館の概要

	同フロア型	同フロア型	一部分離型	完全分離型
人口(A)	12,947	41,557	49,431	233,958
面積(km ²)	247.2	98.55	191.04	138.01
人口密度(人/km ²)	52.4	421.7	258.7	1695.2
図書館名	珠洲市民図書館	市立小諸図書館	亀山市民図書館	神戸市立西図書館
竣工年月	2019/3	2015/11	2022/10	2022/07
延床面積(m ²)	2664.01	19945.44	11093.71	6172.00
図書館面積(m ²)	2257	2150	3573.04	2275
階数	1F	1F	1-4F	1-3F
エリア配置	同フロア型	同フロア型	一部分離型	完全分離型
複合形態	複合	複合	複合	複合
蔵書冊数(千冊)	140	190	156	200
開架冊数(千冊)	60	108	71	170
開架時間	9:00-19:00	9:00-18:00	9:00-21:00	10:00-20:00
調査日	2021/9/24-25	2023/10/7	2023/9/9	2023/9/16
調査名	アンケート調査			
来館者数(児童)	368(47)	429(56)	768(174)	1663(238)
配布数(児童)	316(38)	382(52)	664(143)	1385(209)
回収率(児童)	306(38)	373(52)	627(136)	1276(199)
回収率(児童)	97%(100%)	97.6%(100%)	84.4%(95.1%)	92.1%(95.2%)
調査名	巡回調査			
調査回数	40	36	48	40
プロット数	827	2009	3561	4772
館内座席数	143	207	381	289
調査名	追跡調査			
調査人数(児童)	26(3)	22(5)	37(8)	23(5)

珠洲外観(同フロア型)
小諸外観(同フロア型)
亀山外観(一部分離型)
神戸外観(完全分離型)

28

利用者属性別にみた図書館利用の動向

利用者の属性割合

各館の同伴形態

珠洲は学生が少なく、神戸は高齢者が多い

個人とグループの同伴形態は変化なし

属性	珠洲	小諸	亀山	神戸
児童	68分	41分	68分	39分
学生	114分	183分	119分	89分
一般男性	59分	65分	66分	42分
一般女性	53分	55分	55分	33分
高齢者	46分	56分	47分	31分
属性不明	27分	44分	43分	25分
合計	58分	69分	69分	38分

神戸はどの属性も滞在時間が短い

神戸は20分以内が50%を占める

29

開架エリアでの利用者の滞在場所と行為割合

着座行為率(着座人数/滞在者数)は60~70%程度で推移している。

滞在時間は多少差があったが、着座行為率はあまり差がない

30

開架エリアでの利用者の滞在場所と行為割合

各館の利用者属性別の行為割合

行為内容	児童	学生	成人男性	成人女性	高齢者	合計
読書行為	18%	9%	14%	9%	8%	14%
探索行為	12%	9%	14%	9%	8%	14%
勉強行為	10%	30%	5%	12%	9%	13%
作業行為	0%	16%	15%	18%	9%	13%
移動行為	4%	6%	6%	7%	3%	6%
その他	36%	29%	22%	35%	38%	31%
対象プロトコル数	91	87	170	213	86	647

各館の利用者属性別の滞在場所

滞在場所	珠洲					小諸					亀山					神戸					4館				
	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体
読書行為	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
探索行為	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
勉強行為	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
作業行為	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
移動行為	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
その他	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	11%	
対象プロトコル数	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	

珠洲は学生が少なく、小諸・亀山・神戸は各階で偏りはあるが、全体の合計は滞在時間の長い学生が多く、属性の割合に大きな差はない。

26種類の行為を読書行為、探索行為、勉強行為、会話行為、作業行為、移動行為、その他に集約。

開架エリアの平面構成が異なるが、小諸・亀山・神戸の行為割合に大きな差がない

開架エリアの平面構成や空間構成が異なっても利用者の行為内容は変化しない¹⁾

珠洲は学生が少ないため勉強行為が少ない

座席タイプからみた利用者層と着座行為

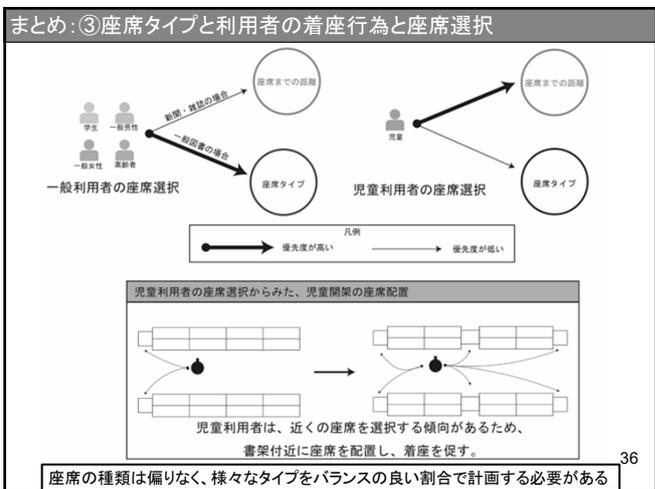
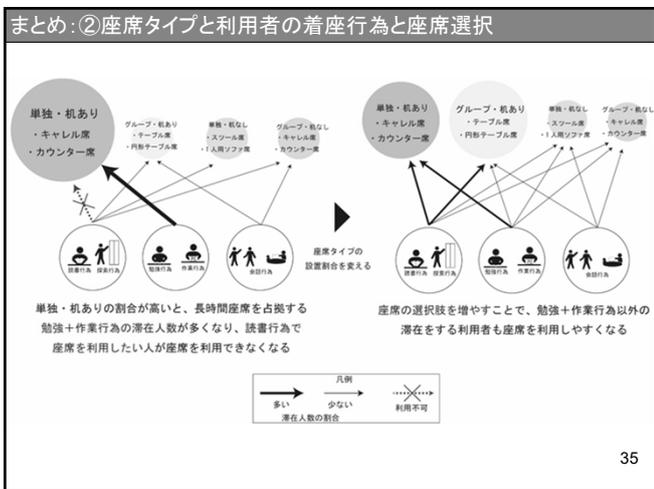
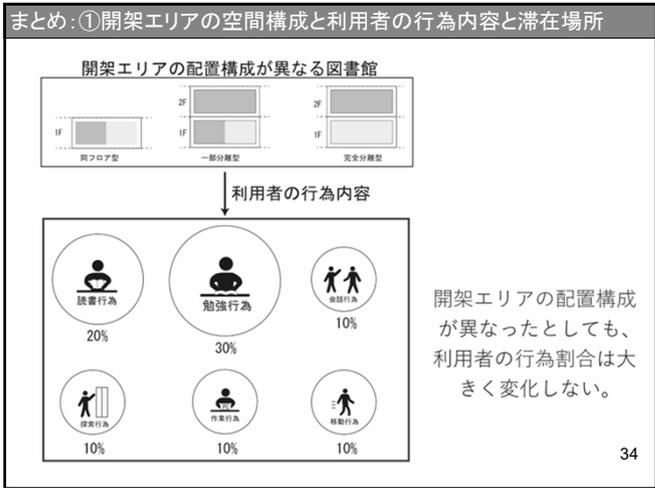
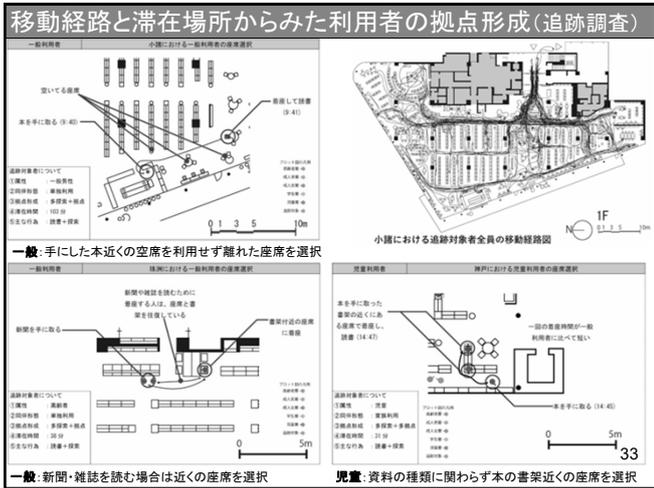
座席タイプ	珠洲					小諸					亀山					神戸					4館				
	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体	1階	2階	3階	4階	全体
単独・机あり	19%	9%	22%	5%	19%	88%	23%	0%	46%	100%	57%	33%													
グループ・机あり	48%	3%	64%	44%	38%	0%	1%	1%	7%	0%	19%	35%													
単独・机なし	20%	28%	14%	80%	17%	13%	19%	23%	0%	7%	18%														
グループ・机なし	13%	10%	0%	2%	26%	0%	17%	36%	27%	0%	17%	15%													
座席数	205	209	107	88	139	32	366	97	59	145	301	1081													

珠洲と亀山は「グループ・机あり」が4~5割で、単独机ありと単独机なしは2割、小諸はどれも約3割。

神戸は「単独・机あり」が約6割も占めている。

「単独・机あり」は【勉強+作業行為】、「単独・机なし」や「グループ・机なし」は【読書+探索行為】に割合が偏っていた。「グループ・机あり」は特定の行為に偏らず、幅広い行為が行われていた。

「単独・机あり」は、長時間滞在の学生層が多く利用するため、特定の座席タイプに偏ると利用者が求めている座席を選択できない。 32



5. 複合施設の階構成と利用者の居場所選択

- 1) 図書館と他施設の利用状況
- 2) 滞在者分布と行為割合
- 3) 図書館利用者の他施設への動線
- 4) 立体的にみた滞在场所と移動経路



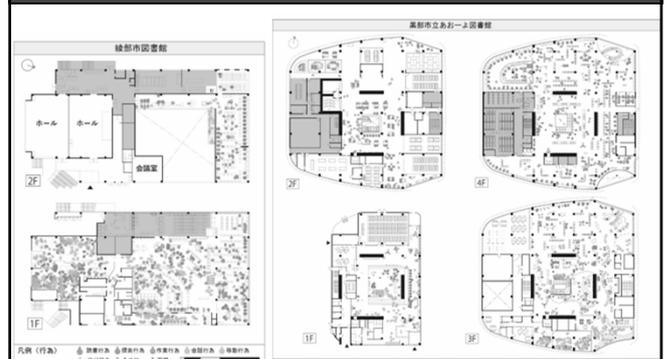
調査対象館の施設構成

各施設の図書館と他施設の利用状況

	亀山	黒部	綾部	合計	既往研究
図書館利用者	92%	75%	82%	84%	77%
他施設利用者	19%	39%	39%	31%	28%
図書館のみ	75%	54%	54%	62%	61%
図書館+他施設	17%	17%	29%	22%	16%
他施設のみ	2%	22%	10%	9%	12%
図書館のみ利用型	53%	35%	23%	38%	
他施設のみ利用型	2%	9%	4%	4%	
別日使い分け利用型	21%	24%	33%	26%	
同日複合利用型	16%	19%	29%	22%	
不明	9%	12%	12%	11%	9%
回答者数	629	527	513	1669	4202

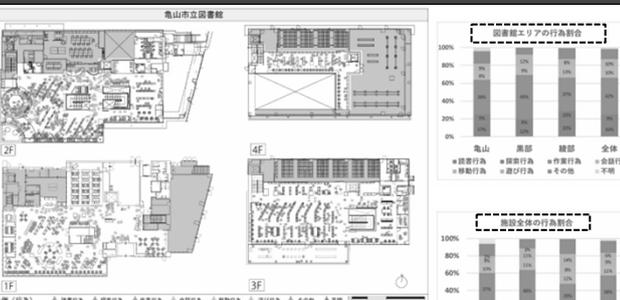
- ・ 図書館利用者は黒部で少し低いが、亀山・綾部は8割を超える。
- ・ 図書館+他施設は、綾部が3割と高く、黒部は他施設のみが2割と多く、複合している他施設によって、利用に差が生じている。
- ・ 調査当日+過去も含めると、図書館と他施設を合わせて利用している利用パターンは、亀山と黒部で4割、綾部では6割となっている。

滞在分布と行為割合



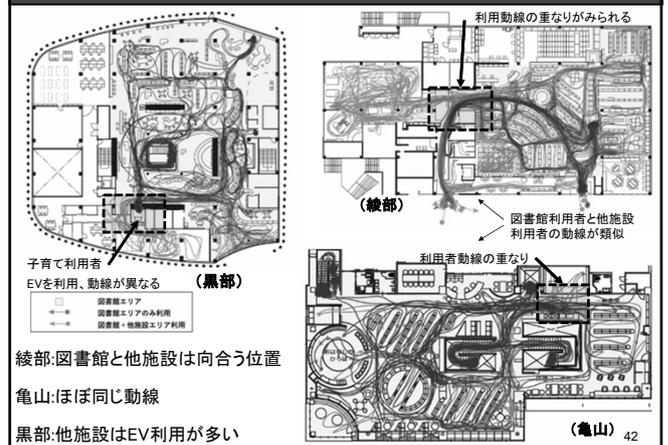
- ・ どの施設でも、各階で行為の分布に、少し偏りが生じている。

滞在分布と行為割合



- ・ 図書館エリア内での行為割合に大きな差はない。
- ・ 施設全体の行為割合は複合相手の他施設により変化している。

図書館利用者の主要動線からみた他施設利用状況



- 綾部: 図書館と他施設は向合う位置
- 亀山: ほぼ同じ動線
- 黒部: 他施設はEV利用が多い

各館における利用圏域の新旧比較 / 交通手段と利用状況の変化

図書館別の交通手段

館名	徒歩	自転車	バイク	車	バス	電車	その他	回答者数(N=)
【旧亀山】	0.4%	4.2%	32.5%	62.6%	0.0%	0.4%	0.0%	265
【新亀山】	5.7%	4.3%	19.8%	57.7%	1.8%	10.7%	0.0%	600
【旧神戸】	31.5%	12.9%	8.3%	34.5%	5.0%	7.3%	0.4%	736
【新神戸】	40.7%	8.6%	8.7%	25.6%	5.9%	10.2%	0.3%	1160

・徒歩での利用者が増加している
 ・車での利用者が減少→車利用者がいる
 ・車での利用者が減少している
 ・電車での利用者が増加している

各館の利用状況パターン

館名	変化なし	変化あり	新規利用	回答者数(N=)
【新亀山】	52.8%	23.8%	23.4%	428
【新神戸】	68.3%	15.7%	15.9%	928

・新亀山 → 変化なしが53%と少なく、変化あり・新規利用が多い
 ・新神戸 → 変化なしが約7割で既往研究と同じ割合

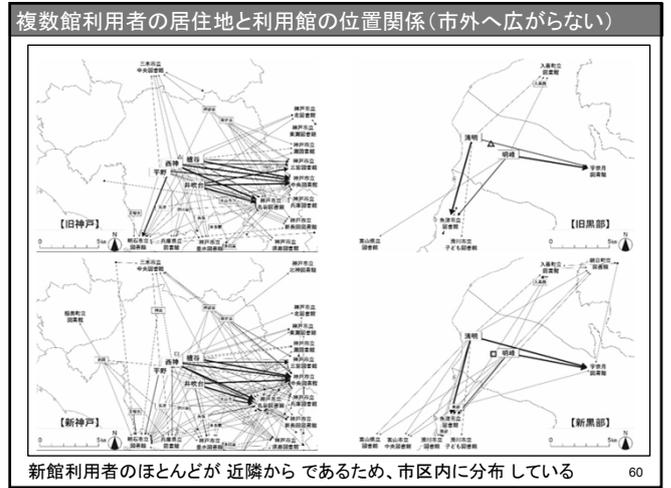
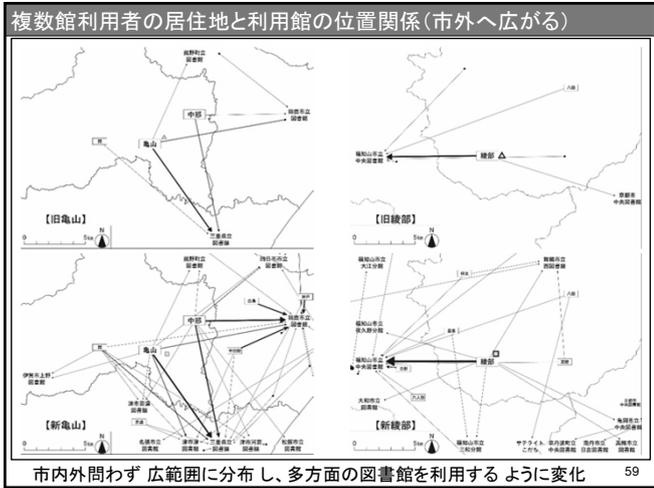
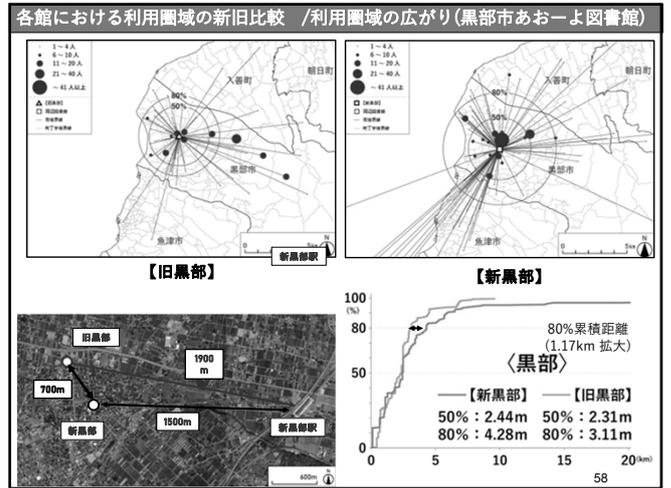
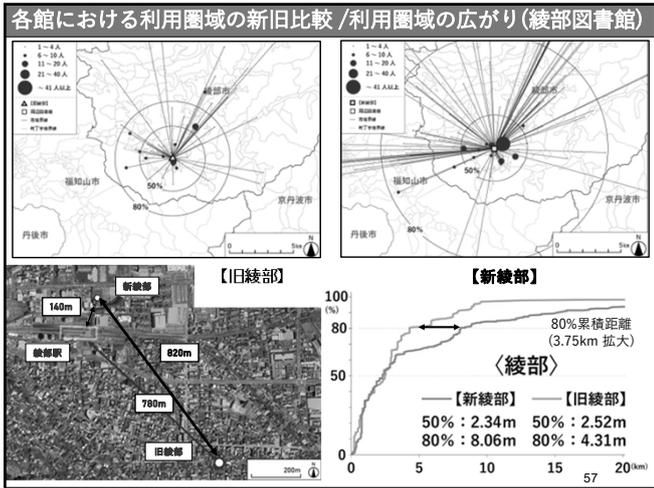
「変化なし」: 新設移転前後での図書館の利用の仕方が変わらなかった利用者
 「変化あり」: 新設移転前後での図書館の利用の仕方が変化した利用者
 「新規利用」: 今まで調査対象館を利用していなかったが新設移転によって新しく利用し始めた利用者

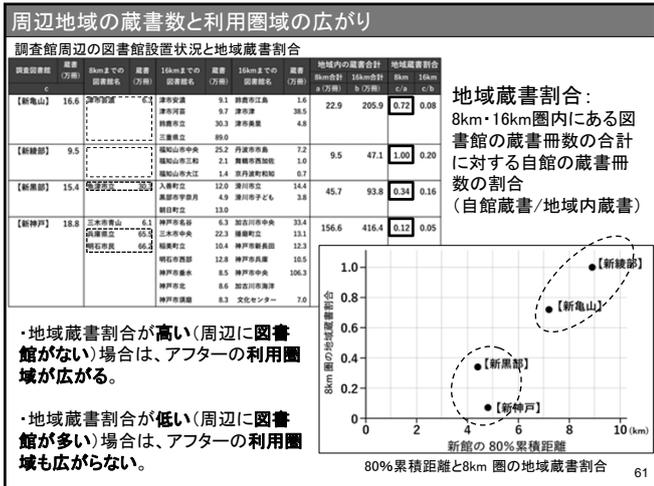
55

調査概要

所在地 図書館名	京都府綾部市		富山県黒部市	
	旧綾部市図書館	綾部市図書館	旧黒部市立図書館	黒部市立あおーよ図書館
外観				
行政区域面積	347.1 km ²	347.1 km ²	426.3 km ²	426.3 km ²
常住人口	32,177 人	30,596 人	38,856 人	39,598 人
竣工年月	1993年7月	2023年11月	1973年4月	2023年10月
施設種別	中央館	中央館	中央館	中央館
図書館面積	575 m ²	1,250 m ²	1,124 m ²	3,516 m ²
階数	2 階	2 階	2 階	4 階
複合形態	複合施設	複合施設	複合施設	複合施設
複合機能	集会施設	集会施設(地域交流センター) 子育て交流センター	集会施設	移住・人つなぎ支援センター 子育て支援センター、公民館
開館時間(平日)	9:30-18:00	10:00-19:00	9:00-20:00	9:00-20:00
開館時間(土日祝)	9:30-18:00	10:00-18:00	9:00-18:00	9:00-20:00
蔵書冊数/開架冊数	85,000 冊/58,000 冊	94,998 冊/37,973 冊	15,500 冊/63,000 冊	160,000 冊/67,000 冊
駐車場の駐車台数	19 台	74 台	8 台	100 台
最寄り駅までの距離	780 m	140 m	1,900 m	1,500 m
アンケート調査	2018年9月29日(土)	2024年9月28日(土)	2022年9月3日(土)	2024年9月21日(土)
来館者数(うち児童)	278 人 (84 人)	558 人 (168 人)	247 人 (59 人)	652 人 (115 人)
回収枚数(うち児童)	238 枚 (71 枚)	513 枚 (160 枚)	221 枚 (57 枚)	527 枚 (90 枚)
回収率(うち児童)	98.8 % (97.3 %)	94.8 % (97.0 %)	100.0 % (100.0 %)	89.6 % (82.6 %)

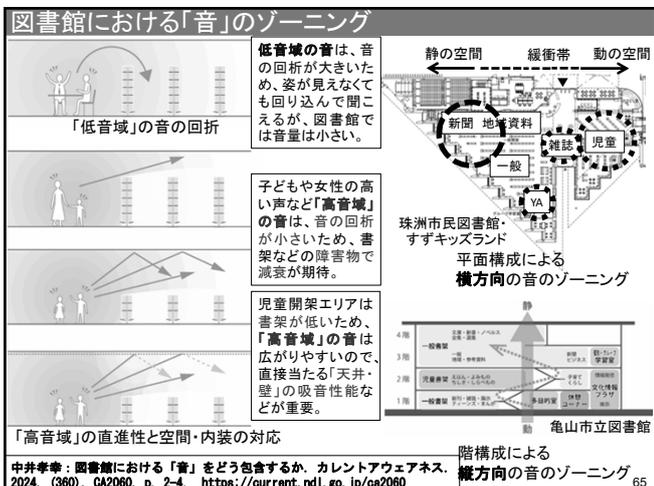
56





8. 利用者数の想定と「音」のゾーニング

- 1) ビフォー・アフターの調査結果から予測
- 2) 利用状況に関する調査結果から予測
- 3) 図書館における「音」のゾーニング



9. 海外事例(北欧の図書館)

- 1) OODI ヘルシンキ市立図書館 フィンランド (音のゾーニング、階構成、課題解決)
- 2) DOKK1 オーフス市立図書館 デンマーク (空間のつながり、交通アクセス、見える化)
- 3) DEICHMAN オスロ中央図書館 ノルウェー (音のゾーニング、居場所、空間のつながり)
- 4) デンマーク図書館の児童サービス (ベビーカー置場、育児父親、多様な活動)





まとめ

- 1) 有機的につながる滞在型図書館
- 2) 多機能融合型の図書館利用のきっかけと継続
- 3) 地域全体で構築する多機能融合型の施設づくりとネットワークづくり
- 4) 多機能融合型図書館における「にぎわい」のまちへの展開

74

有機的につながる滞在型図書館

■「成長する有機体」として、また「記憶の倉庫」としての図書館

- ・ 図書館は地域住民の約3割しか利用していない。
- ・ 図書館への「近づきやすさ」、アクセシビリティが重要。
→ (駐車場の確保、公共交通手段、ベビーカー置き場など)
- ・ 滞在時間が長い、本を読むだけでなく、空間の体験や経験。
- ・ いろんな種類の座席や閲覧席がある。→ 「選択肢」を用意。
- ・ いろんな「場所」が用意され、いろんな「活動」に出会えること。
- ・ 利用者が気持ちよく使える静と動の「音のゾーニング」を行う。

■新しい図書館と利用者の利用行動

- ・ 新図書館利用者の約60～70%が「変化なし」の利用者。
- ・ 利用が変化する割合は各図書館で異なるが、今まで使っていた図書館を使わなくなるのではなく、利用の選択肢が広がる。
- ・ 新規利用は約10～20%で、今まで利用してきた利用者にも向けたサービスを継続しないと、見限られてしまう。

75

多機能融合型の図書館利用の「きっかけ」と「継続」

「多機能融合型」の図書館づくり → 「きっかけ」と「継続」

■きっかけ

- ・ 来館を促し、興味を持ってもらうこと。
- ・ 利用の選択肢を広げ、親しみ・近づきやすく。
- ・ 本の貸し借りだけでなく、多様な学びの場を用意。
- ・ 身近な場所のステップ(踏み台)から活動の範囲を広げる。
(施設利用のスプリング・ボード現象)

■継続

- ・ 活動の見える化、拠点化。
- ・ 活動をアーカイブし、記憶する。
- ・ 活動の記憶はいつでもどこでも見れる。
- ・ 活動の段階に応じた場所とサポートの確保。



ソウル市図書館「OUTDOOR LIBRARY」

図書館は「屋根のある広場」として、様々な学びの活動の器に！ 76

地域全体で構築する多機能融合型の施設づくりとネットワークづくり

新しく多機能融合型の図書館を整備したからといって、地域の課題がすべて解決できるわけではない。

↓

- ・ 他の公共施設との連携。
- ・ 地域全体で構築したネットワークの中で図書館を捉え、機能分担や役割分担の検討。
- ・ 機能連携や機能融合した活動の器を用意。
- ・ 「図書館」は多機能化するが、資料・情報提供は不変。

多機能融合型の図書館における「にぎわい」のまちへの展開

新しく多機能融合型の図書館ができると、来館者数は増加。

↓

- ・ 施設内のカフェなどの店舗は入れ替わりが早い。
 - ・ 利用者が施設内で飲料などを購入しない。
 - ・ 利用者が建物周辺の街や地域へ広がっていない。
- ↓
- ・ 新しく施設自体にできた新しい人流を、いかに周辺や地域へ広げるかが、大きな課題。

77

ご清聴ありがとうございました。

